

### 3・4 アジア船主フォーラム

#### 3・4・1 アジア船主フォーラム総会

第18回アジア船主フォーラム(ASF)総会が、平成21(2009)年5月26日に台湾船主協会の主催により台湾の台南市で開催された。同総会には、アジア7地域、12船協(日本、韓国、中国、台湾、香港、ASEAN(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)、豪州)から118名の代表が出席。当協会からは前川会長をはじめ15名の代表が参加した。[【資料 3-4-1-1】](#)

ASFは、1992年に第1回会合を当協会主催で開催して以来、メンバー国/地域の船主協会が北から南の順で議長および開催地を回り持ちしながら毎年開催しており、毎年の年次総会の間に5つの常任委員会( SHIPPING・エコノミクス・レビュー、シップ・リサイクル、船員、航行安全・環境、保険・法務)が夫々の中間会合を開催している。5つの常任委員会の構成および各委員会への当協会代表は[【資料 3-4-1-2】](#)のとおりである。

台南総会では、各委員会の個別会合に続き、本会合で各委員会から1年間の活動報告が行われ、同報告を踏まえて活発な意見交換が行われた後、プレスリリースおよび共同声明([【資料 3-4-1-3】](#))を採択した。同総会において、インド船主協会のASF加入が正式に承認され、同声明でその加入につき歓迎の意を表明した。

第19回総会は、2010年5月25日に香港船主協会の主催により香港で開催される。

#### 3・4・2 委員会における検討状況

##### (1) SERC (SHIPPING・エコノミクス・レビュー委員会)中間会合

ASF SHIPPING・エコノミクス・レビュー委員会(Shipping Economics Review Committee:SERC)は、その中間会合を以下のとおり開催し、当協会企画部がその事務局として活動した。

##### 第22回中間会合(2010年3月2日 於東京)

同会合では、工藤泰三常任理事が新委員長として議長を務め、ASFメンバー船協から7カ国/地域の代表19名が出席した。

会合では、太平洋およびアジア域内コンテナ航路の需給見通し、ドライバルク/タンカーの市況動向のほか、独占禁止法適用除外問題、船舶の排出ガス削減に向けた取組みを含む環境問題等について、率直かつ活発な意見交換を行った後、了解事項を採択した。出席者および了解事項は、

夫々【資料 3-4-2-1】および【資料 3-4-2-2】のとおり。

(2) SRC(船舶リサイクル委員会)中間会合

ASF 船舶リサイクル委員会(Ship Recycling Committee:SRC)は平成 22(2010)年 3 月 29 日に香港で第 13 回中間会合を開催し、Bronson Hsieh(台湾船協)委員長の下、中国、台湾、インドネシア、ベトナム、香港および日本の各船協が出席した。同会合ではシップリサイクル条約に関する諸問題や現存船インベントリの早期作成などについて意見交換が行なわれた。

(3) SC(船員委員会)中間会合

ASF 船員委員会(Seafarers Committee:SC)は平成 21(2009)年 11 月 19 日にベトナム・ハノイで第 15 回中間会合を開催した。同会合には、Li Shan-min(中国船協)委員長の下、ホスト国のベトナムの他、中国、香港、台湾、シンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシアおよび日本の各船協が出席し、ソマリア海賊問題、改正 STCW 条約、ILO 海事労働条約、改正フィリピン出稼労働者法案などの船員関連問題について議論がなされた。

(4) SNEC(航行安全・環境委員会)中間会合

ASF 航行安全・環境委員会(Safe Navigation and Environment Committee:SNEC)は中間会合を以下の通り開催し、S. S. Teo(シンガポール船協)委員長の下、アデン湾における海賊問題や温室効果ガス削減問題など、船舶の航行安全および環境保全に関する多くの案件について審議した。

第 17 回中間会合(平成 21(2009)年 9 月 18 日 於シンガポール)

第 18 回中間会合(平成 22(2010)年 3 月 9 日 於シンガポール)

(各会合には、中国、香港、インド、日本、韓国、台湾、ASEAN の各船協が出席)

(5) SILC(保険・法務委員会)中間会合

ASF 保険・法務(Ship Insurance and Liability Committee:SILC)の第 14 回中間会合が平成 21(2009)年 4 月 1 日に香港で開催され、中国、台湾、香港、日本、インドネシア、フィリピン、シンガポ

ールおよびベトナムの各船協が出席した。同会合では、George Chao(香港船協)委員長の下、2008年末に国連総会で採択された国際海上物品運送法条約のレビュー、欧米で国際海運に影響を及ぼす規則が提案された際の対応、船主の遺棄及び死傷に関する責任と補償、船員への刑事罰適用に係る問題など、海事関連規則・条約等に関する審議及び意見交換が行われた。

### 3・4・3 ASF 会長会議

ASF 加盟船協会長で構成される「ASF 会長会議」の第 5 回会合は、第 18 回 ASF 台南総会前日の平成 21(2009)年 5 月 25 日に台湾・台南市で開催され、ASF 次期事務局長選出問題等が取り上げられた(出席者は[資料 3-4-3-1](#))。

ASF 事務局は平成 19(2007)年 10 月に設立され、初代事務局長に Wang Cheng 氏が就任していたが、第 5 回会合では各国船協が次期事務局長候補者を推薦することが合意され、その後、当協会常任理事(当時)の園田裕一氏を推薦したところ、各国船協会長の同意が成立したため、園田氏は平成 22(2010)年 1 月から ASF 事務局のあるシンガポールで次期事務局長として活動することとなった。

第 5 回会合では、ASF 次期事務局長選出問題の他、IMO のオブザーバーステータス、ASF 定款および平成 23(2011)年以降の ASF 事務局費用等についても検討された。